

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4677700173
法人名	有限会社 三木
事業所名	グループホーム おおきな木
訪問調査日	平成21年11月10日
評価確定日	平成21年12月10日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4677700173
法人名	有限会社 三木
事業所名	グループホーム おおきな木
所在地	肝属郡南大隅町根占川南3611番地 (電 話) 0994-24-2001
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成21年11月10日

【情報提供票より】(平成21年10月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年5月31日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 10人, 非常勤 5人, 常勤換算	12.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 85.2 歳	最低 79 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今隈医院 阿久根医院 永田歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

庭におおきな木のある、ゆっくりと落ち着ける雰囲気を持ったホームである。周辺には消防署や警察署、住民の集まる施設などがあり、地域の方々と交流を持つことができる環境にある。入居者や職員は地元出身者が多く、共通の話題も豊富であり、会話の絶えない時間をともに過ごし支え合って生活している。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	【同業者との交流を通じた向上】近隣のグループホームとの交流機会を持つことについて、働きかけを続けているが、今のところ実施には至っていない。今後も引き続き検討課題である。【重度化や終末期に向けた方針の共有】利用者の急変時の対応として、マニュアルの整備に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、項目別に職員へ振り分け、最終的に職員会議でまとめている。前回の改善項目については、職員会議にて話し合わせ、現在改善に向けて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、民生委員や行政担当者からの意見が活発に出されており、町の広報誌への掲載やボランティア受入れ等について話し合い、実施に結びついている。しかし、今年6月の開催を最後に、インフルエンザ予防対策として開催を見合わせている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年2~3回家族会を開催している。事前にアンケートを実施し、その中でいただいた意見について家族会で回答および説明を行っている。家族会で挙げられた意見などから、検討の上実施となった事例もある。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元の利用者が多いということもあり、地域の行事に参加した際など、地元の方々との交流が自然に行われ、良好な関係が築かれている。

2. 評価結果詳細

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関係づくりについての文言を入れることで、地域をより意識した取り組みを行うように努めている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時に理念の唱和を行い、「笑顔」の絶えないホームづくりを目指していることを確認している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の利用者が多いということもあり、地域の行事に参加した際など、地元の方々と利用者との交流が自然に行われ、良好な関係が築かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、項目別に職員へ振り分け、最終的に職員会議でまとめている。前回の改善項目については、職員会議にて話し合われ、現在改善に向けて取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、民生委員や行政担当者からの意見が活発に出されており、町の広報誌への掲載やボランティア受入れ等について話し合い、実施に結びついている。しかし、今年6月の開催を最後に、インフルエンザ予防対策として開催を見合わせている。	○	現在はインフルエンザ予防対策として実施されていないが、運営推進会議の意義について再度確認した上で、開催場所の工夫や会議に代わる方法などを検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	家族会に行政担当者も参加する機会があり、直接、利用者やご家族と意見交換できる場となっている。また、職員も行政窓口を訪ね、相談や状況報告などを頻回に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者毎に担当職員を決めており、担当者は毎月の「近況報告」に生活状況、受診状況、金銭収支報告などを記載し、ご家族へ郵送している。そのほか、必要な事項が生じた場合は随時連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2～3回家族会を開催している。事前にアンケートを実施し、その中でいただいた意見について家族会で回答および説明を行っている。家族会で挙げられた意見などから、検討の上実施となった事例もある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	「グループホームとは」、「認知症とは」といった内容についての教育機会を多く持ち、利用者についての特性を理解することで、仕事に活かせるように熱心な指導がなされている。ユニット間での交流はあり、利用者と同顔馴染みの関係ができています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修については年間計画を立て、毎月勉強会が実施されている。外部研修については、職員のこれまでの経験や職種をみて、研修内容に合った参加職員を選定している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域行事や病院受診時に、近隣のグループホーム職員との接点があり、顔見知りの関係から情報交換が行えるような関係づくりがなされている。	○	地域での顔合わせの際にコミュニケーションがとれているが、相互訪問や勉強会、協力体制づくりには至っていないので、今後のさらなる交流に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学や体験利用を行っており、希望者の状態によっては実際に宿泊していただき、その方の特性を知るとともに、顔馴染みの関係を築けるように働きかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から昔の話や歌を教わって楽しい時間を共に過ごしたり、家庭菜園づくりを教えてもらいながら一緒に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりを通して利用者から様々な情報を得て、職員全員がそれを共有している。何をしたいのか、どうしたいのかといった思いを自ら話される方が多いが、困難な場合は、筆談やジェスチャーで確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者それぞれに担当職員がおり、その職員が中心となって計画実施表作成やアセスメント、モニタリング記録を行っている。それらを基に、職員会議で介護計画についての話し合いを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しについては、更新時に加え、状態変化がみられた際にはその都度実施するように努めている。担当職員を中心に、新たな要望や変化はないか、常に確認がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や入退院時の送迎、外泊支援や訪問理容の受け入れ等を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の決定については、利用者およびご家族で決めていただいている。必要な利用者が居られる場合は、訪問診療を受入れ情報交換を行うなど、かかりつけ医と連携して適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでに看取りの経験がある。ユニット毎に1名ずつ看護師が配置されているため、医師やご家族との協力体制は充実している。利用者の状態に合わせ、その都度本人やご家族の意思確認を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄誘導の際の配慮や、日常の関わりの中での言葉づかいには特に注意しており、利用者の誇りを傷つけないように努めている。入居時には、行事等での写真撮影や個人名の表記等について可否の確認をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムやパターンを大切にしたい関わりを考え、利用者から希望が出された場合は、職員は業務を中断してでも、すぐに対応するように心掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理師免許を有する職員を配置し、バランスが良く、目でも楽しめるような食事を提供している。月に1回は、職員と利用者が一緒に調理をする機会をつくり、利用者の希望を取り入れながら、食事が楽しみなものとなるように取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月曜日から土曜日まで、いつでも対応可能である。入浴拒否の見られる方に対しては、声かけを工夫したり、場合によっては清拭に変更して支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりについて、どのようなことに興味があるのか、好まれるのかを探り、それが自然に活かせるような場面づくりがなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は庭に出たり、近所へ買い物や散歩に出るなど、なるべく戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向にある方に対する対応の仕方として、施錠せずに見守り等で対応するユニットと、状況によってはご家族了解のもとで施錠せざるを得ないと考えて取り組むユニットがある。	○	鍵をかけないケアの実践のために、事業所全体としての方針についてユニット間で話し合い、共通の認識で取り組んでいただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を年2回実施しており、うち1回は地域住民と合同で実施している。また、毎月の職員会議で自主訓練を実施し、避難誘導経路や連絡先の確認、救急蘇生法の訓練等を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給チェック表に水分摂取量や食事摂取量を記録し、管理がなされている。栄養面については、調理師である職員が研修会へ参加できる機会を設けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音や音楽が付けっぱなしにならないように、利用者の状況に合わせた配慮がなされている。夏は、うちわやひまわり、冬は、凧やクリスマス等を意識したものを飾り付けることで、季節感を味わえるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやカーテン、エアコンは設置されており、箆箆や椅子、カレンダーや写真などは、好みに応じて利用者が持ち込まれている。		